

第16回障害者の情報・コミュニケーションに関する協議会議事概要

日 時 令和5年3月24日(金曜日) 14:00～16:00
会 場 横須賀市総合福祉会館 5階 視聴覚研修室
出席委員 浅羽委員、井上委員、大武委員、工藤委員、熊谷委員、崎山委員、白井委員
白石委員、山田委員、小菅委員、小谷委員
欠 席 加藤委員
事務局 佐藤課長、岸本点字図書館長、沼尻係長、泉主任、三守
議 題 別紙資料次第のとおり
配布資料 別紙のとおり

審議概要

1 開会、資料確認、定数報告、傍聴人数報告

- ① 事務局(佐藤課長)が司会となり開会した。
- ② 定員数12名中、11名の出席があり、障害者の情報・コミュニケーションに関する協議会規則第4条により会議が成立している旨を報告した。
- ③ 1名の傍聴の申し出があり、傍聴を許可した旨を報告した。
- ④ 事務局職員の紹介を行った。
- ⑤ 配布資料の確認を行った。

2 議 事

議事に入り進行は事務局から井上委員長となった。

熊谷委員より、議事の順番を(2)以下について、議事(3)、議事(4)を審議を経てから、議事(2)の令和5年度の施策について審議させていただきたいとの申し出があった。

井上委員長が事務局に了解を得て、議事の順番を(1)、(3)、(4)、(2)とすることとなった。

議事(1) 第15回障害者の情報・コミュニケーションに関する協議会議事概要の確認について

事務局より(資料1)について、議事録は会話形式により発言内容を要約して事務局で案を作成し、委員の皆様の確認をとり、修正が必要な部分については発言者に確認をした上で、修正したものであることが説明された。

特に質疑はなく、第15回障害者の情報・コミュニケーションに関する協議会議事概要は確定した。

続いて、議事（3）令和4年度公共施設におけるバリアフリー対応状況調査の結果について事務局より資料4に基づき説明があり、各委員より次のような質疑が行われた

【事務局】

事前配布した資料に訂正があり、本日配布した資料は訂正後の資料である。

訂正箇所について次のとおり。

- ・2ページ目1行目（ウ）の件数、割合の表記がなかったため、「ある」について2件、2% 「なし」について88件、98%を加筆。
- ・3ページ目最終行「筆談対応が可能である表示を窓口等に設置しているか」について「いる」の割合について70%訂正して84%に、「いない」の件数について27か所から12か所に、割合について30%から16%に訂正。

【小菅委員】

・この調査は今回初めて行ったものなのか。過去に行っているのであれば、状況はよくなっているのか。

・「(3) 窓口・受付でのコミュニケーション支援について」の②で、筆談での対応が可能な体制が整っていない施設が15か所で17%あり、これらの施設は筆談が必要となってもコミュニケーションをとらないのか、それともお客さんが来ない施設なのか。

【事務局】

この調査は毎年行っているのではなく、前回の調査は平成28年度に行っている。

当時の調査結果との比較は現在のところ行っていないが、前回と比較して体制が良くなったか調べることは重要であり、今後確認していく。

このアンケート調査の結果により、現状を把握して改善してもらいたいというのが趣旨なので、結果については庁内で共有して周知・啓発していきたい。

【白井委員】

基本的に公的施設であれば、バリアフリー化に関する予算が何かしら計上されていると思うが、今年度に何か実施したものはあるか。

また、次に調査をするのであれば、前回との変化がわかるような形で調査をしていただいた方がよいと思う。

【事務局】

バリアフリー化の予算は各部署で計上しており、確認できていない状況であるが、今後どのような形で確認できるか検討させていただきたい。

前回からの変化については、確実に調査を行っていきたい。

【大武委員】

実態を把握する意味では良い調査であるが、調査するにあたり、あるべき形を明確に設定し、それにどう近づけて行くかを考えて行けば良いと思う。

公的機関があるべき形を示し、商店街等の民間企業がバリアフリー化していなければ、お客さんが来ないというような社会的変化をもたらせば良いと思うので、何を指すのかを整理して、明確にするとわかりやすい。

【事務局】

横須賀市全体の話となるので、何ができるかについて検討していきたいと思う。

【熊谷委員】

横須賀市のバリアフリー化を数値で示していただき、ありがとうございました。

聴覚障害者として、視覚的情報提供がまだ十分ではないので、今後、行政で対応いただくとともに、目指す数値を定めて進めてほしい。

【事務局】

全庁的な問題なので、ご意見を踏まえて確認して行きたいと思う。

【大武委員】

近年の情報技術の向上で、効率的、効果的に調査をすることも可能だと思うので、市役所内の情報政策を所管する部署も含めて、市役所全体で調査することも考えてもいいと思う。

【事務局】

ご意見として伺う。

【崎山委員】

平時及び緊急時の情報提供体制の有無について、各行政センターで、ある所、ない所にばらつきがある。

行政センターは市民にとって身近な存在であるが、情報提供体制が整っていないと、遠方の行政センターまで足を運ぶことになってしまう。このアンケート結果を調査した部署に周知していただき、情報提供体制の整備を促し、より良い社会づくりにつながればと思う。

障害があるなしに関わらず、様々な方が来る場所であることを考え、特に視覚情報の提供は、聞こえる方でも聞き漏らし等もあるので、幅広い方に対応できると思う。

【事務局】

今回の調査については集計して終わりではないので、結果については情報共有していきたい。

【工藤委員】

この結果を生かすには、行政センター等各部署に任せるのではなく、ある程度強制力を持たせないと対応が遅れていくと思う。

横須賀市が進めている多様性を認める取り組みでも、直ぐに出来ること、出来ないことがあると思うが、視覚情報、筆談対応は直ぐにでも出来ることだと思うので、これらについて本協議会から市長へ提言書を出す等して、市長命令という形で強制力を持たせることができるのではないかと思う。

【事務局】

すぐに実施できるものを、どういう形で実施させるかについては、確認する。

【山田委員】

緊急時の視覚情報として、どういう物があるのか。

また、呼び出されても聞こえ難い方は、緊張して順番を待っているので、救急医療センターの振動呼出装置のような情報提供が広まると安心できる。

【事務局】

振動呼出装置は聴覚が不自由な方には有効な手段だと思っており、どういう形で整備できるかについては確認させていただく。視覚での情報提供についても併せて確認させていただきたい。

【井上委員長】

山田委員からは、緊急時の視覚情報の提供として、どのようなものがあるか質問していますが。

【事務局】

即答できないので確認させていただく。

【小谷委員】

目指すものが何かという意見がでていますが、次回は新たな項目を調査に取り入れていただきたい。

例えば、人感センサーが整備されたトイレだったり、フリーワイファイが広く普及することで、使い慣れた自身のツールの活用により情報を取り入れることができるなど、新たな調査項目を入れて実施していただきたい。

【事務局】

次回のアンケートでは新たな項目を考えていきたい。

様々なご意見の中で、すぐにできそうなものについては検討していきたいが、装置の設置等については全体の中で研究させていただく。

他に質疑はなく 10 分間の休憩に入る。

休憩後、議事（４）前回協議会での質問への回答に移った。

事務局より資料５に基づき説明があり、各委員より次のような質疑が行われた

【大武委員】

失語症については私が調べて欲しいとお願いしたものである。対応していただきありがとうございます。脳疾患で倒れ、言葉を取り戻すのに言語聴覚士も加わり 10 年を要した仲間がいる。こういう時にどのような支援があるのか周知してもらえることが重要であると思う。

【事務局】

失語症者向け意思疎通支援者派遣事業については、手話・要約筆記と比べ対象人数の違いはあるが、周知を徹底しないと、利用できる人が利用できなくなる恐れもあることに留意し、対応していきたい。

【熊谷委員】

回答作成ありがとうございます。

昨年の秋頃、市長から、うわまち病院が久里浜に移転し、その跡地に福祉系の施設ができるような話を聞いている。将来、看護師になる方を養成するのであれば、失語症、視覚障害、聴覚障害等がどのような障害で、どう対応するかについて学ぶ機会をカリキュラムの中に入れていただきたいと思う。

【事務局】

ご意見として伺う。

他に質疑はなく、議事（２）令和５年度障害者の情報取得及びコミュニケーションに関する施策について（案）に移った。

事務局より資料３に基づき説明があり、各委員より次のような質疑が行われた

【工藤委員】

２ページの（３）情報取得及び情報コミュニケーションの支援のための機器の情報収集、利用普及について、近年、不正なアプリ使った情報の「切り抜き」などが起きており、不正なアプリを使用しない等の啓蒙も行った方が良いと思う。

【事務局】

視覚障害の方は色々なアプリを使用して情報収集される方が多いので、利用者の方に情報を提供して行きたい。

【白井委員】

令和５年度に新たに取り組むものがあつたら教えていただきたい。

【事務局】

令和5年度に点字図書館を利用している方をお呼びしてスマートフォンの勉強会を実施したいと思う。

最初は、利用者向けに行い、その後、広報よこすかで参加者を募り、利用していない方も対象として実施したい。

【小菅委員】

2ページのコミュニケーション等手段の普及の啓発の(1)市内の講演会等でのコミュニケーション等支援者の配置の啓発についてで、保健所でも公演会や研修会を対面で開催する際は、手話通訳、要約筆記を予算計上して配置している。ここ数年コロナ感染症の影響で、ズームでの研修会等を行う場合があり、その時に必要な配慮として、どのようなものがあるか。

【事務局】

総合福祉会館が閉館となり、点字図書館を利用できない時があった。

その時に、パソコンサポートのボランティアさんが根気よく、利用者さんにズームのやり方を教え、点字図書館を介さず、ボランティアさんの協力により利用者さんが情報を得ることができたという事例があった。

【崎山委員】

3ページの情報取得機会の拡大及び方法の充実の(2)不特定多数の人が集まる場所における音声、文字、手話、視覚情報等による情報提供の充実についてで、協議会の中で課題を認識、共有して行くとの説明があったが、年に2回の協議会で、どの程度のスパンで共有し、充実につなげるのか。

災害、情報保障は急いで準備が必要だと思うので、現時点でどの位のスパンで考えているのか。

【事務局】

現時点で申し上げるのは難しいので確認させていただく。

【熊谷委員】

一つ目は、議題2の中で手話通訳者の派遣範囲で広げられない要因として、手話通訳者が足りなくなるとの説明があったが、令和5年度の手話講習会の初級は定員の2倍程の応募があり、抽選により受講者を決めている。抽選に漏れた方は、受講したくても出来ないことになる。

現在は1人の講師が20人の受講者を教えているが、講師をもう1人増やして、昼間20人と夜間20人で講習会を実施することはできないか。

また、手話通訳者が高齢化することで、手話通訳者が減ってしまうことも懸念している。

手話通訳者の資格を得るためには最低でも5年程度必要なので、手話通訳者への入り口となる手話講習会の参加者を増やすよう考えてほしい。

二つ目は、(2) ②ガイドブック「共成社会の実現について」の作成について、現在のガイドブックを街中で、あまり目にすることが無いので、どこに配布しているのか教えてほしい。

令和5年度にガイドブックの改訂版を作成するにあたり、そのスケジュールが決まっていたら教えてほしい。

最後に、国際手話デーの時に、ティボディエ邸をブルーでライトアップしていただいたことに感謝している。引き続き行っていただきたい。

【事務局】

手話講習会は、令和5年度の状況をみながら今後のことを考えていきたい。

手話通訳者の資格を取得するのに長い時間がかかり、途中で断念してしまう方がいる等で、手話通訳者が増えない状況にあると思うが、聴覚障害者にとって手話通訳者は様々な場面で必要であることは認識している。

ガイドブックについては、前回の協議会でお願いしたアンケートでのご意見を取り入れ、文言等を修正するなどして作成する予定である。

配布先は、前回 8,000 冊作成し、各施設等に配布しており、今回は 5,000 部なので、配布部数は多少、少なくなるが、今回も同じ施設等に配布する予定。その他の配布先については、協議会からも意見をうかがいたい。

他に質疑はなく、次第3. 報告事項に移った。

事務局より資料6に基づき説明があった。

【事務局】

アンケート調査に協力いただき、感謝する。全体で9か所の文言修正について回答があった。市民に適切に内容が伝わるよう、表現方法を変更修正するべきものは修正したい。

文言以外でも、イラストの男女の服装等に対する意見もあった。作成するときに、改めて報告する。

質疑はなく、次第4. その他に移った。

4. そのほか

【浅羽委員】

個人的な話になるが、災害に関するガイドブックについて、障害者の困りごと等を伝えるためにどのように活用できるか、具体的に考えているところで、良いアイデアがあれば、近場であれば伺う。ご協力願いたい。

【白石委員】

協会役員として、災害時における障害者の困りごと、特に視覚障害者特有の悩みなどについて、市民の方に理解してもらえるのか。

いざ災害が起こり、障害者が避難所に行ったときの困りごとを、どう理解してもらえるのか。同じ障害でも困りごとの内容は、人それぞれ異なることを分かってもらえる機会をとらえて伝えていきたい。

【大武委員】

今日の出席者の殆どが、障害者団体連絡協議会の会員である。

手話通訳者の人数等、支援者の先行きに対する不透明感が強いと感じており、地域の中で、意欲的な人材を掘り起こすことも意識して活動するべきと思っている。

北欧の先進国は、情報保障、バリアフリーは当たり前であり常識であると聞く。

この協議会で決まったことは起点で、それをどこまで波及させるかが問題であり、地域から社会を変えて行くことが、この会の役割だと思っている。

本日の資料を基に、会員の皆と会話して様々な意見を集めたいと思っている。

【熊谷委員】

情報提供として、4月から主に一人暮らしの高齢聴覚障害者を対象に手話による傾聴をボランティアにより行うこととした。

きっかけは、高齢聴覚障害者は、高齢者施設に行ってもコミュニケーションが取れないため、気楽に利用できず自宅に居ることが多くなり、最終的に引きこもりとなる聴覚高齢者がたくさん居ることがわかったからである。

少しでも社会に出て、生きがいを見出してもらえるように、なんでもいいから手話で聞くというボランティアをつくることにした。

聴覚障害者協会会員以外の高齢聴覚障害者の情報をおもちの方は、総合福祉会館4階の社会福祉協議会のボランティアセンターに情報提供していただければと考えていますので、ご協力をお願いします。

【事務局】 機会があれば伝えていきたい。

他に発言はなく、本日の議事は全て終了した。

【事務局】

次回は令和5年度の開催となります。

日時等が決まりましたらご連絡する。

以上